

北海道大学からの返還遺骨を浦河町杵臼コタンに受け入れるカムイノミ、イチャルパについて

主管 コタンの会（代表／清水裕二）
協力 北大開示文書研究会（共同代表／清水裕二、殿平善彦）
プレス担当 市川守弘（コタンの会顧問弁護士）
〒060-0042 札幌市中央区大通西13丁目4の104
北晴大通ビル702 弁護士法人市川守弘法律事務所内
TEL 011-281-3343 FAX 011-281-338

報道機関各位

時下ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。
当会はきたる7月15日～17日、北海道大学からの返還遺骨を浦河町杵臼コタンに受け入れるカムイノミ（カムイへの祈りの儀式）、イチャルパ（祖霊祭、故人の慰霊の儀式。シンヌラッパともいいます）を下記要領で執り行ないます。ぜひ多くの方にご参列いただき、またご支援をお寄せいただきたく、取材と報道をお願い申し上げます。なお、当日はアイヌプリの儀式の厳粛さを保つために一時的に撮影・立ち入りなどの制限エリアを設けさせていただきます（p3）。どうぞご理解いただきますようお願い申し上げます。

北海道大学からの返還遺骨を浦河町杵臼コタンに受け入れるカムイノミ、イチャルパ

●スケジュール（時刻は目安です。変更される場合があります）

7月15日（金曜）	11:15	返還遺骨の確認、出発（北海道大学アイヌ納骨堂＝札幌市北区北15西6、医学部駐車場横）※「コタンの会」主催ではありません。
	16:00	返還遺骨の引き渡し（杵臼生活館）
		カムイノミ、イチャルパ コタンの会、裁判原告らによる記者レク
7月16日（土曜）	13:00	コタンの会代表ごあいさつ
		カムイノミ、イチャルパ
		コタンの会、裁判原告らによる記者レク
7月17日（日曜）	10:00	カムイノミ
		葬列の準備、隊列を組んで遺骨を墓地に移送
	11:00	再埋葬・クワ建立（浦河町杵臼墓地）
		カムイノミ（杵臼生活館） コタンの会、裁判原告らによる記者レク

●会場 北海道浦河町杵臼生活館
浦河町杵臼 515 ☎ 0146-28-1343

●主管 コタンの会 ☎ 011-281-3343
<http://kotankai.jimdo.com>

●協力 北大開示文書研究会
<http://hmjk.world.coocan.jp>

アイヌプリの葬送

アイヌ民族の伝統では、墓地はコタン（集落）ごとにつくられ、多くの場合、死者はキナ（ござ）にくるまれて、副葬品とともに土に埋められる。墓には木製のクワ（墓標）が立てられるが、故人の名前は記されない。埋葬が終わると墓地へは立ち入らず、墓参りでなくコタンごとのシンヌラッパ（祖霊祭、イチャルパとも言う）で先祖への供養が行なわれる。

●一般参列者へのご案内

- どなたでもご参列いただけます。平服でお越してください。
- 厳粛な儀式です。どうぞ静かにご参列ください。携帯電話はマナーモードに切り替えてください。
- 会場内の立ち入り制限エリアには入らないでください。
- 駐車スペースが限られています。路上駐車はできません。飲酒運転は絶対にしないでください。
- 宿泊・食事のご用意はありません。
- 会場では主催者スタッフの指示に従ってください。

●支援金を募っています

「コタンの会」と「北大開示文書研究会」は、大学によってアイヌ墓地から持ち去られた遺骨の尊厳ある返還を実現するために、みなさまのご支援を求めています。ご支援金は、返還遺骨を迎えるカムイノミやイチャルパの費用、儀式の映像記録制作費用、再埋葬地に設置するモニュメント制作費用などに使わせていただきます。ぜひご協力ください。ご支援金は当日会場でも受け付けます。

郵便振替 02730-2-102357 (コタンの会)

●北海道大学から杵臼コタンに返還される遺骨について

杵臼出身のアイヌ3名による返還請求訴訟が今年3月25日、札幌地裁で和解に達し、被告・北海道大学は保管する1027体および484箱分(同大学発表)のアイヌ遺骨のうち、杵臼墓地から持ち出した12体を地元の「コタンの会」に返還することになりました。12人の内訳や墓地発掘の経緯はp4の通りです。

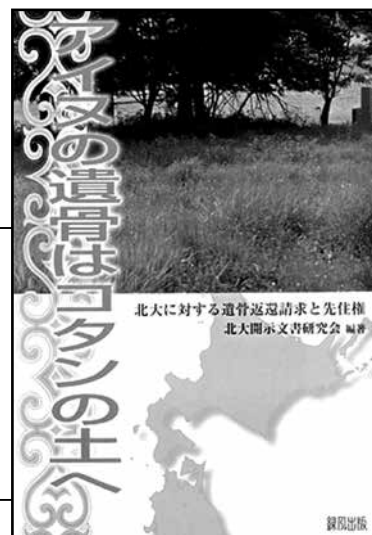
訴訟の経緯、北海道大学などによるアイヌ墓地発掘と遺骨収集の詳細は、北大開示文書研究会編著『アイヌの遺骨はコタンの土へ』をご参照ください。

●コタンの会とは

北海道日高地方のアイヌ有志数十名が2015年12月に設立。返還遺骨の受け入れを担います。
<http://kotankai.jimdo.com>

**アイヌの遺骨はコタンの土へ
北大に対する遺骨返還請求と先住権**

北大開示文書研究会 [編著]
2016年4月20日 緑風出版 [発行]
四六版並製 / 304頁 / 2400円 + 税
ISBN978-4-8461-1604-0 C0036



報道機関各位へのおねがい

アイヌプリ（アイヌ流儀）の儀式の厳粛さを保つために、一時的に撮影・録音・立ち入りなどの制限エリアを設けさせていただきます。大学構内に80年以上にわたって留め置かれていたお骨の慰霊を最優先にと考えております。どうぞご理解いただきますよう、お願い申し上げます。

●メディアデスク

期間中、杵臼生活館にメディアデスクを設けます。どうぞお立ち寄りください。また期間中は毎日、杵臼生活館で主催者の記者レクを行なう予定です。開催時刻などはメディアデスクに掲示します。

●撮影エリア

カムイノミを行なう囲炉裏のまわりには、主催者とゲスト以外は立ち入ることができません。近くにプレス向けの撮影エリアを設けますので、ご利用ください。

●撮影の注意事項

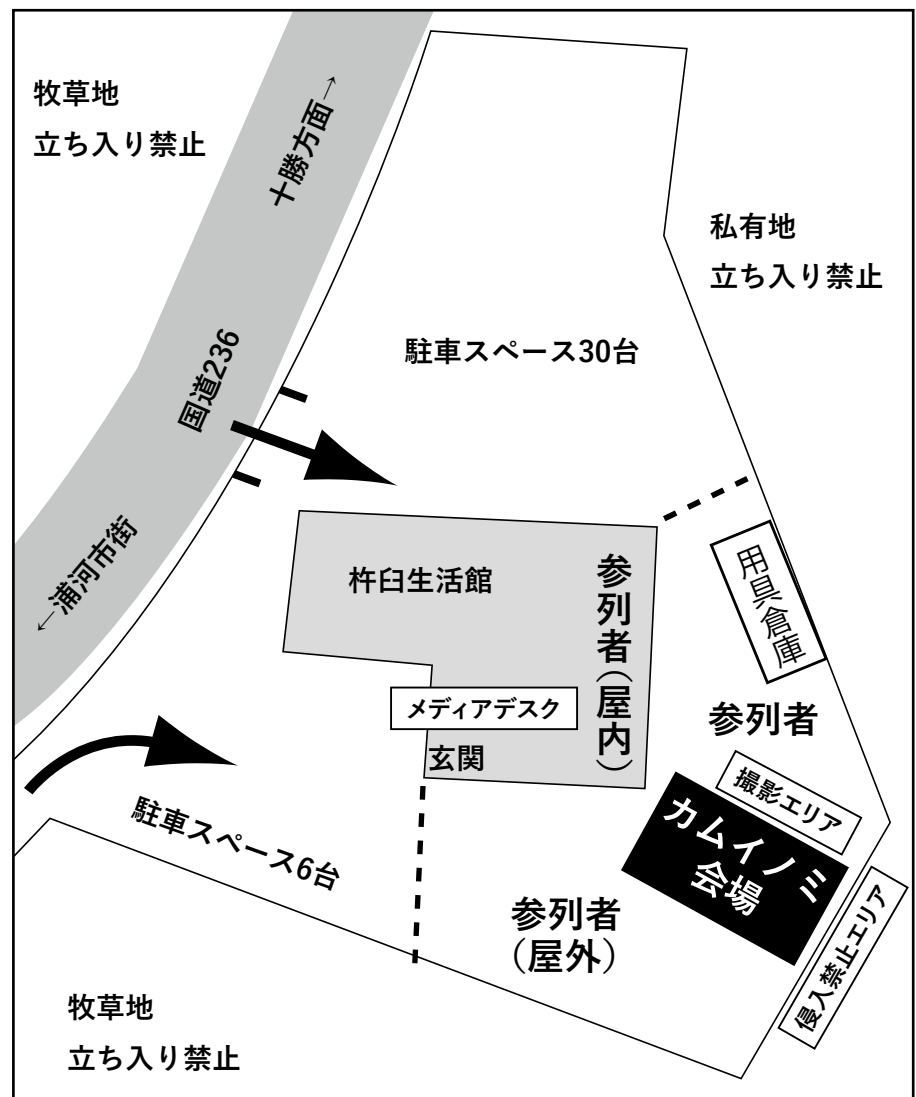
儀式や参列者をストロボ／ライトで照らすような撮影はご遠慮ください。

●事故防止、迷惑防止にご協力を

返還遺骨を墓地まで移送する葬列（17日午前）は、1キロ弱の車道を徒歩で移動します（所用時間は15分間程度）。周辺は競走馬の放牧場です。取材の際は、近所迷惑および事故防止にくれぐれもご注意ください。

●その他

会場では主催者スタッフの指示に従ってください。また不明な点はお気軽にお問い合わせください。



●和解条項に基づき北海道大学が柙白コタンに返還する遺骨

人骨の情報				大学が保管にいたった経緯				人骨の出土等に関する情報				
番号	部位	性別	推定年齢	個人特定	時期	経緯	出土時期	出土場所	発掘・発見主体	出土等の経緯	備考	返還
1	頭骨	不明	成人	否	1935	医学部解剖学第二講座	不明	浦河町柙白	不明	不明	「柙白1-1」として管理	●
2	頭骨	不明	成人	否	1935	医学部解剖学第二講座	不明	浦河町柙白	不明	不明	「柙白1-2」として管理	●
3	頭骨	不明	成人	否	1935	医学部解剖学第二講座	不明	浦河町柙白	不明	不明	「柙白1-3」として管理	●
4	頭骨	不明	成人	否	1935	医学部解剖学第二講座	不明	浦河町柙白	不明	不明	「柙白1-4」として管理	●
5	全身骨	女	成人	可能	1931/09/04	医学部解剖学第一講座	1931/09/04	浦河町柙白	医学部解剖学第一講座	不明	「柙白2」として管理	△
6	全身骨	男	成人	可能	不明	医学部解剖学第一講座	不明	浦河町柙白	医学部解剖学第一講座	不明	「柙白3」として管理	◎
7	全身骨	男	成人	可能	1931/09/05	医学部解剖学第一講座	1931/09/05	浦河町柙白	医学部解剖学第一講座	不明	「柙白4」として管理	△
8	全身骨	男	成人	可能	1931/09/06	医学部解剖学第一講座	1931/09/06	浦河町柙白	医学部解剖学第一講座	不明	「柙白5」として管理	△
9	頭骨	不明	成人	否	不明	医学部解剖学第一講座	不明	浦河町柙白	医学部解剖学第一講座	不明	「柙白6」として管理	●
10	頭骨	不明	成人	否	不明	医学部解剖学第一講座	不明	浦河町柙白	不明	不明	「柙白7」として管理	●
11	頭骨	不明	成人	否	不明	医学部解剖学第一講座	不明	浦河町柙白	不明	不明	「柙白8」として管理	●
12	頭骨	不明	成人	否	不明	医学部解剖学第一講座	不明	浦河町柙白	不明	不明	「柙白9」として管理	●
13	頭骨	不明	成人	否	不明	医学部解剖学第一講座	不明	浦河町柙白	不明	不明	「柙白10」として管理	●
14	全身骨	男	成人	可能	1931/09/04	医学部解剖学第一講座	1931/09/04	浦河町柙白	医学部解剖学第一講座	不明	「柙白11」として管理	△
15	頭骨	不明	成人	否	不明	医学部解剖学第一講座	不明	浦河町柙白	不明	不明	「柙白12」として管理	●
16	-	不明	不明	否	不明	不明	不明	浦河町柙白	不明	不明	旧骨箱名「柙白」	●

●コタンへ返還決定

◎小川隆吉さんの血縁者、返還決定

△北大が遺骨の個人情報を公告

「番号」は北海道大学「北海道大学医学部アイヌ人骨収蔵経緯に関する調査報告書」(2013年3月)に基づく。

16番目の遺骨は上記報告書に存在記載がなく、訴訟和解条項で新たに加えられた。

●墓地発掘の経緯

北海道大学「北海道大学医学部アイヌ人骨収蔵経緯に関する調査報告書」(2013年3月) p15-16 から引用。

<http://hmkj.world.coccan.jp/archives.html>

①解剖学第一講座山崎春雄教授は、1931年に浦河郡でアイヌ墓地を発掘した。これは医学部におけるアイヌ墓地発掘の嚆矢である。1933年には沙流郡、1934年には旭川市においてアイヌ墓地を発掘した。

②1950年2月24日、解剖学第一講座は収蔵人骨59体(古人骨等を含む)を解剖学第二講座に移管した。このうち、アイヌ人骨は47体である。表8に発掘地別に59体を整理した。

③アイヌ人骨47体のうち、19体(柙白5体、東幌別2体、野深2体、平取1体、荷負2体、上貫別6体、近文1体)については、被葬者の氏名の記載がある。

④アイヌ人骨47体のうち、「発掘」と記載がある17体は、解剖学第一講座が発掘した。7体には「寄贈」あるいは「寄託」と記載があり、寄贈・寄託手続きを経て収蔵するにいった。⑤「発掘」と記載がある17体には、被葬者の記名の記載がある。そのうちの14体(柙白3体、野深1体、平取1体、荷負2体、上貫別6体、近文1体)には年齢、2体(柙白2体、野深1体)には没年月日、9体(平取1体、荷負2体、上貫別6体)には埋葬年月日、1体(野深1体)には移住歴の記載がある。

人骨発掘の意図、アイヌ墓地発掘・アイヌ人骨収蔵にいたる経緯を記していない。収蔵アイヌ人骨にもとづく研究論文を発表した形跡も見当たらない。発掘・収蔵経緯については、わずかに、医学部学友会誌『フアラ』第27号(1934年7月)に、O生が「昨年秋、平取町字荷負村のシケレベコタン(きはだの実部落)で骨格蒐集の為に、墓を数個掘った時の事である……」との記述を見出せるに過ぎない。O生はアイヌ人骨には言及しておらず、発掘人骨台帳(複写物、電子フアイナルホルダー)にもシケレベコタンに関する人骨の記述はない。ない、O生は岡田正夫(解剖学第一講座助教授)

である。

発掘地域の自治体の公文書、自治体史においても、発掘・収蔵経緯に関連する記述は現時点では確認されていない。そのため、発掘地の番まで確定することは困難であるが、上記17体の発掘場所は表10の墓地と考えられる。